

会員投稿 『フリータイム』 千葉県松戸市 中村 富家

定年直後、自由時間ができたら、手を着けたいと思っていた一つに、本棚の文学全集をゆっくり読むことであった。この文学全集は昭和42.3年頃、月々購入し、ひまが出来たら読もうと思いつつ三十数年、本棚に鎮座したままになっていた。

本社に転勤した当時、夏季の地下鉄通勤は冷房がなく、蒸し暑さに耐えられず、何か暑さを忘れさせるものはないかと考え、山岡荘八著の文庫本「徳川家康」二十数冊を車中のみで読んだ覚えがある。長編を読むのはそれ以来である。時間に追われることなく、好きな時間に好きな小説が読めるのは相当な贅沢な思いもあった。大半は乱読になったが、世に「名作」と評価を受けている数多の長編を読み終えて所期の目的を果たした。ただし、同じ小説でも社会人になる前に読んだ時とは、感動の度合いが違う。願わくは、それなりに感性がある頃、実行していたらと少々悔やまれる。

無芸大食でなく無芸退職となったので、フリータイムに充てるものとして自然観察会、囲碁（取られる石が多い）、競馬（ロスが多い）、近くの私大の特別講座受講等を急ごしらえした。未だ熱中できる程の趣味にはなっていない。従って、多くを語るにおよばない。ただし、何事も石の上にも3年というが、オン年を迎える頃は頑張り過ぎたり、嫌な思いをしてまで続ける気持ちはない。よって、1年乃至2年で物にならないものは切る。切れるまえに。そして、また次のものに挑戦しようと思う。

もう一つ、フリータイムに充てるものとして現在、月に数日、特許関係のアルバイトをしている。当然のことながら報酬をもらうことは、いい意味での緊張感がある。現役の頃は始業時間ギリギリの職場到着であったが、今や20~30分前にアルバイト先の席についている。すべからく余裕なのか、今までの反動なのかわからない。いわゆる遊びが多いので知らずしらずの間に全体のバランスをとっているのかと善意に解釈している。一口にフリータイムというが、それを上手に使いこなすことは一生懸命の課題になると思う。

今冬は例年になく寒かった。昨年の夏が猛暑だったので、自然界は年間平均気温を例年に近づけるためバランスをとっているものと思う。末筆ながら 会員の皆様、季節の変わり目故、風邪など引かぬよう御身を大切に。

2001-2-7 中村 富家

